

やまなし しぜん まも
山梨の自然を守るために

いま わたし
今、私たちにできること



やまなしけん
山梨県

せい ぶつ た よう せい 生物多様性とは？

わたし にんげん くう き みず た
私たち人間は、きれいな空気や水、食べものがないと生
きていいません。

ふ だん い しき し
普段、あまり意識しないかも知れませんが、それらは地
きゅうじょう い ゆた し ぜん
球上にいる生きものや豊かな自然がつくってくれています。
たと くう き しょくぶつ こうごうせい う みず
例えば、きれいな空気は植物の光合成から生まれ、水は
そら ふ あめ ゆき みなもと わたし まいにち た
空から降った雨や雪が源となっています。私たちが毎日食
こめ や さい にく さかな おお い めぐ
べる米や野菜、肉、魚などは、多くの生きものからの恵み
です。

わたし はん た おな おお い
また、私たちがご飯を食べるのと同じように、多くの生
ほか い た いのち
きものも他の生きものを食べることで命をつないでいます。
せい ぶつ た よう せい さまざま かんきょう なか
生物多様性とは、様々な環境の中でいろいろな生きもの
がいること、そして、それぞれが個性やはたらきを持って、
ほか い ささ あ い
他の生きものと支え合って生きていることを言います。
ち きゅうじょう い ささ あ い
地球上の生きものは、ずっとこうやって支え合って生き
てきました。

いま ささ あ くず い
しかし、今、この支え合うバランスが崩れて、生きもの
たちがかつてないスピードで絶滅し、生物多様性が大きな
き き ちよくめん
危機に直面しています。

なに ち きゅうじょう い
このまま何もしなかったら、地球上の生きものがみんな
い 生きていけなくなってしまいます。

い めぐ かんしゃ すべ い いっしょ
生きもののからの恵みに感謝し、全ての生きものが一緒に
い わたし いま かんが
生きていけるよう、私たちが今できることをみんなで考え
ましょう。



せいぶつた ようせい

生物多様性には3つのレベルがあるよ

生態系の多様性

しんりん そうげん かせん かい
森林、草原、河川、海
よう さまざま かんきょう
洋など様々な環境にそ
れぞれの生態系が存在
すること

種の多様性

どうしょくぶつ び せいぶつ
動植物から微生物まで、
たくさんの種の生物が
生きていること

遺伝子の多様性

おな しゅ せいぶつ
同じ種の生物であって
も、遺伝子のレベルで
ちがは違があること

せいぶつた ようせい

生物多様性には4つの恵み（生態系サービス）があるよ

基盤サービス

こうごうせい さんそ きょうきゅう せいそく
光合成による酸素の供給、生息
ちみずどじょう けいせい
地、水、土壤の形成など

供給サービス

しょくりょう ねんりょう もくざい せんい やくひん
食料、燃料、木材、繊維、薬品、
みず にんげん せいかつ じゅうよう し
水など、人間の生活に重要な資
げん ていきょう 源の提供など

調整サービス

きこう ちょうせつ みず
気候の調節、水をきれいにする
はたら しぜんさいがい ぼうし
働き、自然災害の防止など

文化的サービス

こころ やす
心の安らぎ、レクリエーションの
きかい ていきょう
機会の提供など

どうして、生物多様性は危機に直面しているの？

第1の危機

人間の活動や開発による危機

- 森林伐採、開発行為などによる生息、生育地の減少や環境の悪化
- 珍しい生きものが人間の欲求によりたくさん持ち去られることによる個体数の減少

第2の危機

自然に対する働きかけの縮小による危機

- 人口減少、高齢化に伴い、里地里山などの手入れが行き届かなくなることにより、そこをすみかとしていた生きものの個体数の減少
- 耕作放棄地が増えたことなどが原因でニホンジカ等が分布を拡大したことによる生態系への影響

第3の危機

人間により持ち込まれたものによる危機

- 人間が近代的な生活を送るようになったことで持ち込まれた外来生物や化学物質などによる生態系への影響

第4の危機

地球環境の変化による危機

- 地球温暖化による生物多様性への深刻な影響。地球全体の平均気温が1.5°C～2.5°C以上上がると、約20～30%の動植物種の絶滅リスクが高まるだろうと言われている

ぜつめつきぐしゅまも 絶滅危惧種を守ろう

いまい
今、生きものがかつてないスピードで絶滅しているのは何故?

ちきゅうじょう やく まんしゅ い
地球上には、約3,000万種もの生きものがいると言われています。
ひょうこうさ おお さんぐくちたい ゆた みづ めぐ へんか と きこう ち
標高差の大きな山岳地帯や豊かな水に恵まれ、変化に富んだ気候、地
けい い
形をしている山梨県にも多種多様な生きものがいます。
いま にんげん やまなしけん たしゅたよう い
しかし、今、人間による野生動植物の盗掘や乱獲、地球温暖化などの
えいきょう やせいどうぶつ た むかし
影響やニホンジカなどの野生動物が食べることにより、昔はたくさんい
い
た生きものたちがかかつてないスピードで絶滅しています。
い ぜつめつ まも い
かけがえのない生きものを絶滅から守るため、どんな生きものがどんな
りゆう ぜつめつ ぜつめつ き ぐしゅ やまなしけんない せいそく せいいく
理由で絶滅のおそれのある絶滅危惧種なのか、山梨県内に生息・生育し、
とくちょう しゅ しょかい
特徴のある10種をご紹介します。



だい 第1の危機



だい 第1の危機

キタダケソウ

にほん みなみ きただけ
日本では南アルプス北岳にのみ
生育するためこの名前があります。
きただけ ひょうこう なまえ
北岳の標高2800m以上の高山帯で、
されきち すな こいし そうち
砂礫地（砂や小石まじり）の草地に
は たねんそう
生える多年草です。
とうくつ とさんしゃ ふ
盗掘、登山者の踏みつけやストックによるダメージなど人為的な影響
を受けやすい植物です。

あこうざんたい さんちたい しんりん せいそく
亞高山帯から山地帯の森林に生息
やこうせい きうえ せいかつ
し、夜行性でほぼ樹の上で生活し、
じゅもく は め しゅし かじつ た
樹木の葉、芽、種子、果実などを食
べます。
おも しんりん せいかつ
主に森林で生活をしているので、
だいきば しんりんぱっさい せいそく えいきょう
大規模な森林伐採などが生息に影響
あた かんが を与えると考えられています。



だい 第1、第2の危機



だい 第2の危機

ホテイアツモリソウ

こべにむらさきいろ ふくろじょうしんべん ふくろ
濃い紅紫色の袋状唇弁（袋のよう
はな おお ふく
にふくらんだ花びら）が大きく膨ら
んでいるのが特徴です。
あこうざんたい やまなしけん
かつては亞高山帯（山梨県では
ひょうこう そうげん
標高1500mから2500m）の草原に
ありました。その美しさや花の大
きさから盗掘され、さらにシカにも
た 食べられてしまうので個体数が激減
しています。

あき なくさ ひと ひかくとき みじか さん
秋の七草の一つで比較的身近な山
や そうち は たねんそう
野の草地に生える多年草です。
にんげん せいかつようしき へんか そうち げん
人間の生活様式の変化で草地が減
しょう げんしょう
少したことにより全国的に個体数が
げんしょう
減少しています。
せいいくかんきょう へんか しゅ そんぞく えいきょう
生育環境の変化が種の存続に影響
ものがた しょくぶつ
することを物語る植物です。



ライチョウ

だい第4の危機

みなみ
南アルプスの白根三山、仙丈ヶ岳、甲
いこまがたけ
斐駒ヶ岳などの高山帯に生息しています。
おも
主に地上で生活し、植物の芽や種子、
こんらう
昆蟲などを食べています。
こうざん
高山にのみ生息するため地球温暖化の
えいきょう
影響を受けやすく、また、近年、テンな
でんてき
ど天敵による捕食等で個体数が減少して
かんきょうしう
おり、環境省などにより保護対策が実施
されています。



ブッポウソウ

だい第1の危機

なつどり
夏鳥として5月頃、東南アジアか
とらい
ら渡来します。カナブン、カミキ
こんちゅうるい
リムシ、セミなどの昆虫類を主に
たいほく
食べます。大木の洞を巣穴として
ほらすあな
利用し、その中で雛を育てますが
なかひなそだ
最近は洞のある大木が少くなり、
さいきんほらあたいほくすく
個体数が激減しています。



アカイシサンショウウオ

だい第1の危機

ねん
12年ほど前に初めて生息が確認
まえ
されました。しかし、かくにん
さんちゅう
されましたが、山中の湿った小石の
じめ
ある様なガレ場の土の中にいるため、
ぱつちなか
分布も明確になっていません。
せいかく
生息場所も限られていると思われ
ほご
るので保護していく必要があります。



ホトケドジョウ

だい第1の危機

ぐんない
郡内地方の限られた地域の、湧水
なが
などが流れ込むような緩やかな流れ
おがわ
の小川や水田に生息します。地域の
ひと
人たちにより保護活動が行われて
おがわ
いますが、小川のコンクリート化、
かいはつ
開発に伴う水田の減少などにより個
ともな
たいとう
体数は減少しています。



コヒョウモンモドキ

だい第1、第2の危機

みなみ
南アルプス、秩父山、八ヶ岳などの
あこざんたい
亜高山帯から山地帯の草原に生息して
います。
ようちゅうた
幼虫が食べる主な植物（食草）はク
きんねん
ガイソウですが、近年、個体数が増加
したシカにより、クガイソウが食べら
げんしょ
れ減少したことなどが影響し、個体数
へせいそくち
が減り、生息地も非常に限られています。



オオクワガタ

だい第1、第2の危機

さんちたい
山地帯のクヌギなどの広葉樹の森
せいそく
に生息しています。
にっしゅう
日中は主に朽木や樹液の出ている
きほら
木の洞などに潜み、夜間に活動します。
にんげん
人間により採集されたり、採集の
すほら
ため、住みかの洞が壊されることな
こたいすう
どにより、個体数が減少しています。

がいらいしゅ なに



外来種は何がいけないの？



きんねん しゅるい がいこくさん い
近年、たくさんの種類の外国産の生きものをペットショップなどで
か 買うことができるようになりました。

めずら み め かわい
カミツキガメやアライグマは、その珍しさや見た目の可愛さから、
おお ひと か だいひょうてき い
多くの人がペットとして飼うようになった代表的な生きものです。

カミツキガメ



ほくべいげんさん はいこうちょう
北米原産で、背甲長

せいちょう
やく 約50cmにまで成長し、
ねん しいくきろく
40年の飼育記録があ
ちょうめい
るなど、長命です。

せいちょう おお もう
しかし、成長すると、大きくなりすぎたり、どう猛になるなど、そ
せいしじょう か しせん なか す ひと
の性質上、飼いきれなくなり、自然の中に捨ててしまう人がいます。
す やせいか がいこくさん い もともと い
捨てられ、野生化した外国産の生きものは、元々そこにいた生きも
せいいたいせい あくえいきょう およ にんげん のうさまもつ ひがい まね
のや生態系に悪影響を及ぼしたり、人間や農作物への被害を招いたり
さまざま もんだい ひ お
するなど、様々な問題を引き起こしています。

がいらいしゅ がいこくさん い おも にほん
また、外来種は外国産の生きもののことと思われがちですが、日本
こくない ちいき もともと ちいき も こ ばあい がいらい
国内のある地域から、元々いなかった地域に持ち込まれた場合も外来
しゆ こくないゆらい がいらいしゅ い もと ちいき い
種となり、これを国内由来の外来種と言い、元からその地域にいる生
あくえいきょう あた ばあい
きものに悪影響を与える場合もあります。

アライグマ



ほくべいげんさん たいじゅう
北米原産で、体重4~10

すう お しまもよう
数kgあり、尾が縞模様
せいたい
になっていて、成体には
きょうぼう こたい
凶暴な個体もいます。

オオキンケイギク



植物の外来種の中には、オオキンケイギクのように、見た目が綺麗なため、観賞用、緑化用として持ち込まれた種もあります。しかし、見た目に反し、繁殖力は強く、元々そこにいた草花の生育場所を奪い、周囲の環境や生態系を変えてしまおそれがあります。

きた
北アメリカ原産で、5月～7月頃にかけ
て黄色いコスモスに似た花を咲かせます。
主に河川敷や線路際に生育します。

アレチウリ

また、アレチウリのように、大量に生育してしまうと、他の植物がほとんど生育しないおそれもあり、生態系への影響が大きいと考えられている種もあります。

きた
北アメリカ原産で、8月～10月頃にかけ
て繁殖します。主に河川敷に多く生育し、
生育速度が非常に速く、長さは数m～10
数mになり、群生することが多いです。



特定外来生物とは

生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの又は及ぼすおそれがあるものとして、外来生物法によって指定された外來生物のことを言います。

特定外来生物は、飼育、栽培、保管、運搬、輸入などが原則禁止されています。

(アライグマ、カミツキガメ、オオキンケイギク、アレチウリ、ウシガエル、ブルーギル、ヒアリなど)

外来種被害予防三原則

外来種による被害を予防するために私たちができること

入れない

悪い影響を及ぼす
おそれのある外来
種を入れない

捨てない

飼育、栽培して
いる外来種を捨てない

拡げない

既に野外にいる外
来種をこれ以上拡
げない

わたし

私たちにできること

がいらいしゃ
外来種を
入れないで

生きものを
大切にしよう

省エネを
心掛けよう

自然と
ふれあおう

自然保護活動に
参加しよう

ゴミを減らそう

山梨の豊かな
自然を守ろう

自然の恵みに
感謝しよう

ペットは最後
まで責任を
もって飼おう

リサイクルしよう

ゴミのポイ捨て
やめよう



山梨の自然を守るために

検索

山梨県環境・エネルギー部自然共生推進課自然保護担当
お問い合わせ先 甲府市丸の内1-6-1
TEL 055-223-1520・FAX 055-223-1781

協力者 石原 誠、窪田 茂、清水 誠、蘿原 桂、村山 力、
富士山科学研究所 安田 泰輔、山梨県植物研究会会員

県産材利用促進



この印刷紙には、山梨の森林認証材が利活用されています。
また、山梨県緑化推進機構に収益金の一部は、寄付されますので、
森林環境保護・水質保全の支援に役立てられます。